

# 第31回 定時株主総会（要旨）

※本資料は、株主総会当日の映像による説明の、一部を抜粋しております。

## フィールズ株式会社 第31回 定時株主総会

### ■ 代表取締役会長兼社長 山本英俊

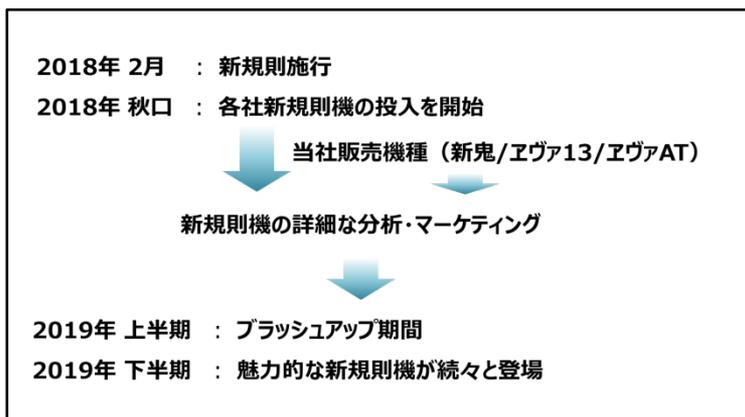
事業報告ならびに2020年3月期の見通しにつきまして、ご説明させていただきます。



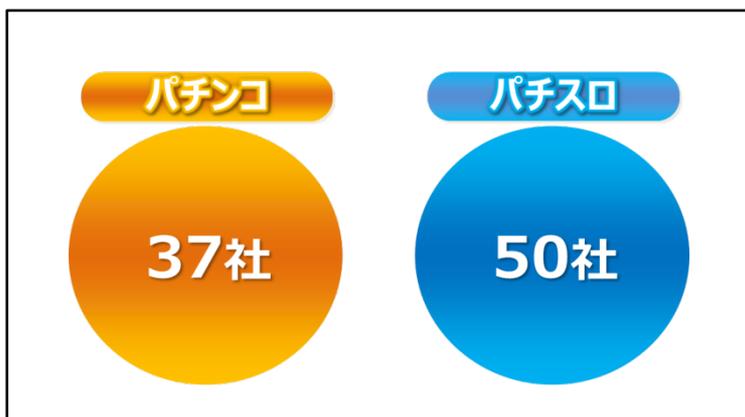
2018年5月に社長に復帰して以降、業績回復に努めてまいりましたが、既報の通り、結果として2019年3月期の事業計画達成に至らなかったことを、深くお詫び申し上げます。

本日は、今般の業績に至った内外環境のご説明と、今後の当社の取り組みについて、ご説明させていただきます。

図①



図②



まず、当社の主力事業であるパチンコ・パチスロ事業について、ご説明させていただきます。

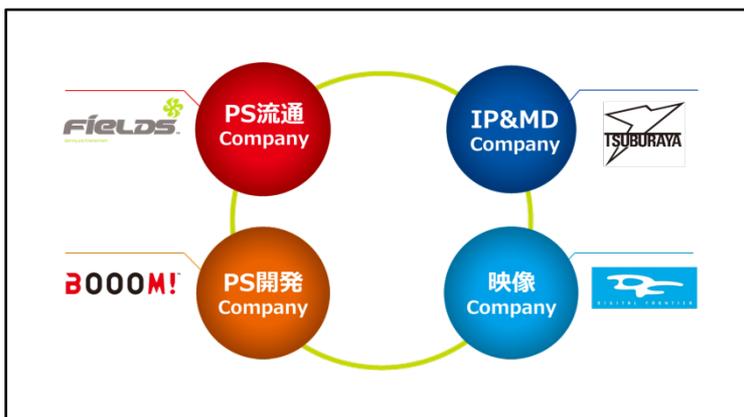
2019年3月期におけるパチンコ・パチスロ業界は、2018年2月に約14年ぶりとなる新規則が施行されて以降、メーカー各社による新規則機の投入が進められ、当社タイトルも含む複数の新規則機は市場から一定の評価を得るに至りました。一方、メーカー各社は保通協申請の混雑と適合率の低下の影響を受けたことにより、いわゆる数万台クラスの販売が見込めるタイトルが適合しづらく、販売期ズレ等のリスクをはらんだ開発が続いています。

このような中、当社は市場で好評を博した新規則機の詳細な分析とマーケティングを徹底して実行しました。これを基に、開発の方向性が確認でき、現在開発中の遊技機のブラッシュアップを鋭意進めています。足元の市場環境の改善も相まって、2019年下半期以降は魅力的な新規則機が続々と登場する見通しです。

また、当社におきましては、市場に存在するパチンコ37社、パチスロ50社のメーカーと手を取り合い、その中で提携メーカーの拡大も視野に入れながら「ゲーム性が高く、楽しめるパチンコ・パチスロ」の開発・販売計画を再加速しています。将来的には、パチンコ・パチスロ各10タイトル、2～3万台ずつ売れるような遊技機を開発・販売し、当社のブランド力を上げ、株主の皆さまにより多くの貢献をできると考えています。

	過去	未来
映画 (TV)	広告宣伝	▶ 映画・TVを収益化
収益	各種ライセンス収入	▶ 企業タイアップ等での ライセンス収益の拡大
	グッズ販売が中心	▶ アジア/欧米 グッズ販売の拡大

左の図は、(株)円谷プロダクションの収益拡大に向けた事業戦略を表しています。同社は、従来進めてきた収益モデルを大きく変えて、さらなる成長を目指します。まず、これまでは広告宣伝に位置付けてきた映画（TV）において、国内外のパートナーと提携し、より収益性のある映画を創出していきます。また、映画放映を皮切りに、企業タイアップ等によるライセンス収益の拡大や、アジア・欧米等、グローバルでのグッズ販売の拡大によって、従来以上に大きな成長曲線を描いていきます。



最後に、当社が中核に位置付ける4つの事業についてご説明します。まず、流通のフィールズ、開発のBOOOMによるパチンコ・パチスロ事業においては、保通協をはじめとする外部環境の変化を好機と捉え、より良い商品を生み出すことで大きな収益を上げていきます。また、円谷プロダクションにおいては、価値の高いコンテンツを創出し、それをグローバルで展開することによって、従来以上の成長を実現させていきます。デジタル・フロンティアにおいては、映画やアニメ、ゲーム、パチンコ等、映像に関する広範な分野で、当社グループの創出する商品のブランド力を上げる役割と位置づけています。

**ご静聴ありがとうございました**

以上をもちまして、私からの事業報告とさせていただきます。

株主の皆様にご貢献できる会社として、社員一同、一層に精進してまいりますので、皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻賜りたいと思います。

長時間、ご清聴ありがとうございました。